

三好謙一 学位論文審査要旨

主 査 長谷川 純 一
副主査 山 田 貞 子
同 村 脇 義 和

主論文

Association between gene polymorphisms of connective tissue growth factor and the progression of chronic liver disease associated with hepatitis C

(C型慢性肝疾患の進展と結合組織増殖因子の遺伝子多型との関連)

(著者：三好謙一、池淵雄一郎、石田千尋、岡本欣也、村脇義和)

平成26年 Internal Medicine 掲載予定

参考論文

1. miR-29b, miR-205 and miR-221 enhance chemosensitivity to gemcitabine in HuH28 human cholangiocarcinoma cells

(miR-29b、miR-205、miR-221はヒト胆管細胞癌株HuH28のゲムシタビン感受性を向上させる)

(著者：岡本欣也、三好謙一、村脇義和)

平成25年 PLoS ONE 8巻 e77623

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はC型慢性肝疾患を対象として線維化促進性サイトカインである結合組織増殖因子 (CTGF) の機能的遺伝子多型とC型慢性肝疾患の進展との関連について検討したものである。その結果、肝硬変では慢性肝炎と異なりCアレルが高頻度であり、肝硬変患者のうちCホモ型で肝予備能の低下が著明であった。また、肝細胞癌発症者ではCホモ型が多い傾向にあり、肝細胞癌発症後の生存期間はCホモ型において有意に短かった。

本論文の内容は、C型慢性肝疾患での肝病変の進展に、CTGFの機能的遺伝子多型が関与しており、転写活性の低いCアレルで、肝細胞癌の予後を含めたC型慢性肝疾患進展の危険性が高いことを明らかにしたものであり、患者管理において有用な所見であり、明らかに学術水準を高めたものと認める。